

観光地の混雑一日で

ひがし茶屋街、近江町市場… 市、ライブ配信開始



市が映像配信を始めたひがし茶屋街(右)と近江町市場の様子

—昨年12月28日(市提供)

人出を分散、「公害」対策に

市は7日、金沢駅東口やひがし茶屋街、近江町市場など観光客が集中する市内5カ所のライブ映像の公開を始めた。市のウェブサイトを通じてリアルタイムに混雑状況を確認でき、観光客が目的地を選ぶ際の参考にしてもらう。市は新年度以降、映像データを活用して観光地の混雑予測の精度アップに取り組む方針で、人出の分散を図り、オーバーツーリズム(観光公害)対策につなげる。

市議会経済環境委

同日の市議会経済環境常任委員会で報告された。

市がカメラを設置したのは金沢駅東口とひがし茶屋街、近江町市場、金沢21世紀美術館、長町武家屋敷跡で、昨年12月から試験運用していた。映像を公開するのは市観光公式サイト「金沢旅物語」で、市は県設置のカメラを活用した兼六園の映像も配信する。

映像は基本的に24時間公開するが、金沢21世紀美術館は開館中に限る。解像度はあえて下げ、個人が特定されないよう配慮した。

市によると、同サイトでは携帯電話の人流データを活用して観光地の混雑度を示す「かなざわ観光快適度マップ」を運用しているものの、「実際の人出と予測が合っていない

い」との声も寄せられている。市はリアルタイムの配信に加え、映像データを元にマップの精度を高めることで、快適に観光できる環境整備を図る。

地震と原油高対策

資金利率下げ延長

経済環境委で市側は、能登半島地震と原油価格高騰に対する緊急経営安定特別資金について、融資利率を年2・15%から1・00%に引き下げる期間を4月29日まで延長するとした。限度額は5千万円で、返済期間は10年以内(うち据え置き期間2年以内)となる。市側は昨年8月の大雨で金沢競馬場が浸水したことを受け策定した、競走馬などの安全確保計画も示した。県、市の主催者側と、県馬主協会など関係者の役割分担を明記している。